平成３０年度　学　校　評　価　【　計　画　書　・　報　告　書　】

加賀市立 三谷小学校 校長　後藤　弘美　　印

学校教育ビジョン
1 学校教育目標　　自ら学び、心豊かでたくましく、未来を切り拓く三谷っ子の育成
2 信頼される学校をめざして　～「行きたい、行かせたい、行ってみたい学校」へ～
①今、求められている学力を育む学校　　②子ども一人一人の心身を育成する学校
③保護者・地域との連携を深める学校　　④望ましい教職員集団の学校

3 本年度の重点事項
何事にも主体的に取り組み、感謝の心をもって人と接することで、友と共に自分の成長を実感しながら、知・徳・体のバランスのとれた豊かな体験ができる学校づくりを推進する。
①確かな学力の向上　　②子ども一人一人の心身の育成
③開かれた学校・信頼される学校　　④組織的で機動的な教職員集団

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果（中間）	2学期以降の改善策	判定結果（最終）	今後の改善策
①教育課程・学習指導	児童一人一人に基礎的基本的な知識と技能の習得を図り、自分の言葉で自分の考えを表現する力を育成する。	書く活動を各教科の授業に意図的に取り入れ、目的や条件に合わせて書くことができる児童を育成する。	教務主任	「書く」力には個人差が見られ、目的や条件に合った文章を書くことや推敲する力を育てる必要がある。	【成果指標】各教科やはげみの時間の課題やふり返りで等で、考えや意見を相手に伝わるように、条件に沿って文章に表すことができる。	各教科において目的や条件に合わせて書く活動を通じて児童に書く力がついたと感じる教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。	B	あらゆる機会に書く活動を取り入れ、児童の表現する場を確保し.はげみの時間では類語辞典を使って語彙を増やし、書く活動に活かすことができた。2学期以降は、条件に沿って文章に表現したり、相手を意識して書いたりする活動を充実していく。	B	類語辞典を使って語彙を増やす活動は引き続き行い、増やした語句を使っての短文作りの取組を推奨していく。また、全ての教科で、書く力を付けることができる場面を単元等の中に位置づけ、意図的に取り組んでいく。
	国語科を中心として、学び合いの質の向上を図りながら、児童一人一人の確かな言葉の力を育成する。	目指す学び合いの姿を明確にし、児童が主体的・協働的に課題を解決していく授業づくりの視点で授業研究を行う。	研究主任	児童の学び合おうとする姿は育ってきているが、学び合いの質という点では課題も多く、教師の関わり方や振り返りについても研究を深める必要がある。	【成果指標】国語科を中心に、学び合いの質を向上させる。	国語科を中心として、学び合いの質が向上してきたと感じる教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。	B	概ね全教員が、国語科を中心として、学び合いの質が向上したと感じている。今後も学び合いの質の向上の観点で授業研究を重ね、10月にこれまでの取組を他校に発表し、いただいたご指導・ご助言を以後の授業改善に活かす。	A	今年度の取組の成果と課題をまとめ、来年度の取組ついての方向性を全教員で共通理解していく。また、国語科以外の教科の授業公開を行い、他教科における学び合いの質の向上も目指す。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	場に応じた気持ちのよいあいさつや言葉遣いの習慣化を図ることで、よりよい人間関係を育成する。	児童会のあいさつ運動、児童会集会、たてわり活動、地域学習、運動会等の行事で意識を高め、挨拶をすることの良さを実感させる。	生徒指導主事	教員、保護者からの呼びかけだけでなく、児童が主体となって呼びかける取組を行ったが、一部の児童は声が小さい。	【成果指標】場に応じた気持ちのよいあいさつや言葉遣いをすることができる。	自分から進んで気持ちのよいあいさつができた児童の割合が、 A　90%以上　B　80%以上 C　70%以上　D　70%未満	7月・12月に児童を対象にアンケートを実施する。	B	朝のあいさつ運動では、児童会が主体となって取り組み、大きな声であいさつができていた。それ以外の日には、あいさつを進んでできない児童が見られるので、日常的にあいさつができるように声かけや雰囲気作りをしていく。	B	児童会のあいさつカードや5年生の提案など児童主体の取り組みによって、元気で気持ちの良いあいさつについて児童の意識の高まりがみられた。今後もあいさつの習慣化を図るようにしていきたい。
	全教職員の同僚性を高め児童理解を共有するとともに、生徒指導の３機能を生かした授業作りに取り組み、いじめ・不登校の未然防止を図る。	月に1度の児童理解の会、学校生活アンケートやQ-Uアンケート、児童との面談などを通じて児童の実態把握を図る。生徒指導の3機能を生かした授業づくりの実践を進める。	生徒指導主事	友だち同士の小さなトラブルが起こることがある。少人数であるため、人間関係が固定する傾向がある。全職員で全校児童に目を配り、変化を見逃さないようにしている。	【努力指標】児童理解に努め、適切な情報共有をし、生徒指導の3機能を意識した授業実践を行う。	児童理解に努め、適切な情報共有をし、生徒指導の3機能を意識した授業実践のできた教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	7月・12月に教職員を対象にアンケートを実施する。	A	毎月児童理解の会を実施し、全職員で情報を共有することができた。今後、生徒指導の3機能のうち「自己決定」を意識した授業作りを実践し、児童の主体性を引き出すようにすることを通じて、積極的ないじめ・不登校の未然防止につなげていく。	A	毎月児童理解の会を実施し、全職員で情報を共有することができた。今後も児童の良いところを認めながら「自己決定」を意識した授業作りを実践し、いじめ・未然防止につなげていく。
③進路指導・キャリア教育	自分のよさを認め、夢や希望をもって努力し、意欲を持って学び続ける児童を育成する。	自分の周りにいる人々に積極的に関わることで、自他の良さを認め合い、ともに高め合おうとする態度を育成する。	キャリア担当	明るく素直で仲が良いがお互いに切磋琢磨し、高め合うことや粘り強さを育成する必要がある。	【努力指標】目標に向かって取り組むことができる。	学習や行事等において、児童が目標に向かって活動していると評価する教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。	B	教師の励まし・言葉がけ、そしてカード等の使用により、児童は目標をかかげ、その達成に向けて活動することができた。2学期は、運動会やマラソン大会など、児童の活躍する場が多々あるので、個々やグループの目標を提示するようにしていきたい。	B	3学期は、新年の誓いという1年の目標を縦割り交流会で発表する。また、なわとび大会では自分の目標を設定し、目標に向かって粘り強く取り組むことにつなげる。
④保健管理	児童の発達段階に応じた、バランスの良い体力の向上を目指す。	器械運動領域だけでなく毎時間の導入でコーディネーション運動を取り入れた体育科の授業を実践する。	体育担当	全体的な体力は向上してきているが、個人差が大きく、体力バランスが悪い児童も多い。	【成果指標】秋の体力テストにおいて、40項目中30項目以上で春の県平均記録を突破する。	秋の体力テストにおいて、各体力要素40項目中、春の県平均記録を突破した項目が、 A　30項目以上　B　25項目以上 C　20項目以上　D　20項目未満	春と秋に体力テストを実施し、体力分析を行う。		児童の体力向上に向けたコーディネーション運動を体育科の授業に取り入れることができた。今後も継続していくとともに、秋に2回目の体力テストを実施して体力分析を行い、平均値の低い体力の向上を図るコーディネーション運動を取り入れる。	A	ほとんどの体力要素は県平均を上回っているが、全体的に柔軟性が劣っているため、体つくり運動領域や器械運動領域を中心に、柔軟性を高める運動を意図的に授業の中に取り入れ、継続して実践していく。
	歯と口の健康管理への意識を高く持ち、予防行動ができる児童を育成する。	専門職と連携した保健教育の実施や、歯みがき強化週間を設け、歯と口の健康意識向上に向けた指導の充実を図る。	養護教諭	高学年になるにつれ、給食後の歯みがきの意識が薄れてきている。歯科検診結果から、多数のむし歯や初期むし歯を持つ児童がみられる。	【成果指標】毎食後、時間をかけて歯をみがくことができる。	毎食後、時間をかけて歯をみがくことができている児童の割合が、 A　90%以上　　B　80%以上 C　70%以上　　D　70%未満	7月・12月に児童を対象にアンケートを実施する。	B	歯科医によるブラッシング教室や全学年への歯みがき指導、手洗い場への砂時計設置により、児童は時間を意識して歯みがきに取り組んでいた。2学期は学校保健委員会を開催し、歯と口の健康への関心をさらに高め、予防行動の定着を目指す。	A	学校保健委員会を開催し、児童・保護者の歯と口の健康への関心を高めることができた。時間をかけたていねいな歯みがきが継続できるよう、今後も声かけや歯みがきカレンダーを実施し、働きかけていく。
⑤安全管理	危機管理意識を高め、防災教育・の充実を図り、事故や災害の際に的確な行動をとることができるようにする。	事故や想定外の事態に備え、危機管理マニュアルに沿った方法で訓練や研修を実施する。	教頭	児童は教師の指示の元、迅速な行動をとることができるようになっている。教職員は、危機管理マニュアル等の把握が十分ではない。	【成果指標】さまざまな非常事態の際に、危機管理マニュアルに則って職員が行動できるようにする。	さまざまな非常事態の際に、危機管理マニュアルに則って行動することができると答えた教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。	B	第1回目の火災訓練の際には、事前の教職員のシュミレーションが不足し、訓練をやり直した。より詳細な訓練計画を立案し、事前の教職員のシュミレーションを充実させ、より効果の高い訓練を実施していく。	A	さらに、事前の教職員のシミュレーションを充実させ、児童が真剣に避難訓練を行い、児童の実践力が向上するよう内容を工夫していく。
⑥特別支援教育	気になる児童への校内支援体制の定着と継続を図り、児童の特性理解を深め、個に応じた支援を組織的に行う。	個に応じた支援を行うために、児童理解の会や特別支援全体会等を活用し、合理的配慮の理解と児童の支援の工夫を共有し組織的に実践する。	特別支援教育コーディネーター	全教職員で児童の特性を共通理解し、児童の指導に当たっている。指導法の工夫やスキルを共有し、一人一人の特性に適した支援を継続的に行う必要がある。	【努力指標】個に応じた合理的配慮の理解や支援の工夫を共有する機会を持ち、児童への支援に活かすことができる。	職員間で共有した指導法の工夫やスキルを活かして個に応じた支援に努めた教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。	B	個に応じた指導法の工夫やスキルの共有および合理的配慮の理解についての校内研修を行い、特性に適した継続的な支援に生かす。	B	合理的配慮についての校内研修会を実施した。個に応じた支援を大切にした授業づくりを今後も継続していく。
⑦組織運営・業務改善	職員が担当業務に専念する時間を確保し、協力して業務に当たることを通じて、学校全体の教育力を高める。	退勤目標時刻を設定し、会議・打合せ等の業務を効率化し、教職員がシェア意識を持って業務にあたることで、働きやすい職場作りを進める。	教頭	会議や打合せが勤務時間をオーバーすることがある。また、家庭に多くの仕事を持ち帰ったり、休日に出勤したりしている職員がいる。	【努力指標】退勤目標時刻を意識し、業務を効率化するようエ夫し、シェア意識を持って協力する。	退勤目標時刻を意識し、業務を効率化するよう工夫し、シェア意識を持って協力することができた教職員が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。	B	職員は、退勤目標時刻を意識し、協力して業務に取り組んでいた。一部の職員で、退勤時刻が遅くなり、1月の時間外が80時間を越えていた。データ整備など、あらゆる視点から業務の効率化を図り、月80時間を越える職員0となるようにしたい。	B	二学期以降は1月に80時間を越える職員はいなくなったが、来年度は日課を変更するなど、さらに、あらゆる視点から業務の効率化を図り、退勤目標時刻を今年度より30分早くできるようにし、職員のワークライフバランスが良くなるようにしていく。
⑧研修	全職員が前向きに研修に取り組み、研修の成果を共有し、共通実践につなげる。	各種研修会・研究発表会・書籍等で得られた情報を、研修した職員が報告する時間を確保し、共有する。	教頭	日常的に研修報告が行われ共有することができた。新学習指導要領実施にあたり、必要な情報を職員が共有し、実践していかなければならない。	【努力指標】研修会等で得られた情報を共有し、実践に生かす。	研修会等で得られた情報を共有し、実践に生かすことができた教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。	B	朝の打合せ・回覧などを利用し、時間を効果的に生かして情報の共有が図られていた。得られた情報についての理解を深め、実践に具体化できるようにしたい。	A	学校研究では、計画的に効果的な校内研修会が実施されていたので来年度も継続していく。各種研修会に参加の報告についてもよく共有が図られていた。
⑨保護者，地域との連携	授業や行事等に保護者や地域の方に積極的に入ってもらい、指導効果を高める。	総合、生活、社会、道徳、特活などの時間に地域人材を活用し、入念な打合せを行い効果的な指導を進める。	教頭	地域人材一覧を活用し、どのクラスも数多くの授業で地域の方を招いて授業を行った。	【努力指標】計画的に地域人材を招き、授業等で効果的に活用する。	地域人材を計画的・効果的に活用して授業等を行うことができた学級が、 A　4学級　B　3学級 C　2学級　D　1学級以下	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。	B	年間指導計画に基づいて、地域人材を活用した授業等の実践が行われていた。一つ一つの実践についてしっかりと振り返りを行い、今後の改善につながるようにしていきたい。	A	今後も、児童の実態や単元のねらいにそって、効果的に地域人材を活用することを推進していく。
⑩教育環境整備	校舎内外の環境整備に努め、安全安心な学習環境の充実を図る。	月に1回の安全点検を活用し、安全で教育効果を高める教育環境づくりに努める。	教頭	計画的な安全点検を実施している。校地全体の環境整備については、育友会・教育後援会・同窓会などと連携して整備にあたっている。	【努力指標】安全点検を徹底し、不備な点は早急に対策を行い、安全で効果的な校舎内外の環境整備に努める。	安全で効果的な学習環境の整備に努めることができたと感じる教職員の割合が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。	B	月1回の点検作業をきっちりと行い.改善すべきことについては迅速に対応した。また、ブロック塀や通学路の点検などもきっちりと行うことができた。安全に対する職員の危機意識をさらに高めていきたい。	A	地域・保護者と連携して通学路等の安全点検に取り組むことができた。今後も定期的な点検を継続していく。
⑪人権教育	お互いのよさや違いを認め合い、よりよい人間関係を築くことを目指す。	すべての教育活動において、自分の周りにいる人々に積極的に関わり、自他の良さを認め合おうとする態度を育成する。	人権担当	すべての教育活動において人権的ねらいを加味して指導を行っているが、さらに十分に意識できるようにする。	【努力指標】人権意識を高く持って指導を行うことができるように努める。	人権意識を高く持って指導を行うことができた教職員が、 A　100%　　B　80%以上 C　60%以上　D　60%未満	学期末に教職員対象のアンケートを実施する。	B	児童アンケートではほとんどの児童が友達に優しくできたと回答したことで、教員が人権意識を持って指導していたことと見受けられる。2学期は「人権週間」を通じて、よりよい人間関係が構築できるよう、指導を行いたい。	B	職員については、人権意識をしっかり持ち指導を行うことはできているが、3学期も学年末の大事な行事や授業中等、引き続き、人権意識を高く持って指導していく。

学校関係者評価	・授業参観した際には、どの児童も意欲的に取り組んでいた。どのクラスも発達段階を追って質の高い学び合う姿が見られた。 ・小規模校でありながら、恥ずかしがりで引っ込み思案ということはなく、堂々と多くの人の前でもみんなが手を挙げて発表できるのはすばらしい。話す力がついている。 ・やるときには集中してやる瞬発力のある子どもに育っている。 ・小規模校の良さがある。基礎的な力も含めて、本当の学力がついている。 ・授業参観を地域の枠を越えて行うなど、三谷小の良さを外部にもっと発信してはどうか。 ・学童保育は、他の地域の保育方法を参考にしたらよい。指導者を幅広く募集したらよい。